令和7年度　奈良県知事賞

税金のありがたさ

奈良県立十津川高等学校　1年　田原　暖

僕は超低出生体重児で産まれ、産まれてすぐに適切な医療を受ける事が出来ました。

医療費とは、病院などの医療機関で診察、投薬、治療、その他必要な医療サービスを受けて、この場合にかかった費用の事です。

赤ちゃんは普通3000g くらいで産まれます。僕の場合は982g で産まれました。産まれてすぐ、脳内出血を起こし、輸血をしたり、自分で呼吸が出来なかったので、ずっと呼吸器をつけていて、保育器に入っていました。

NICU（新生児集中治療室）という所に入っていました。NICUとは、早産や疾患を抱えて産まれた赤ちゃんが健康に大きく育つためのサポートをする治療室で 24 時間体制で酸素や栄養をもらい、NICUを出ても無事に過ごす事が出来るようになるまで懸命にお世話や治療をしてくれる所です。NICUでは 24 時間体制で専門の先生や看護師がずっと見守ってくれています。僕はNICUに、2ヶ月入院して、その後GCU（新生児回復室）という所に1ヶ月入って、合わせて3ヶ月間入院していたそうです。3ヶ月間の入院費が1000万円以上かかったそうです。それを聞いて僕はこんなにお金がかかったのかとびっくりしました。

医療保険制度があることによって小さく産まれた子どもや難病の子どもでも医療費を全額負担しなくても適切な医療を受ける事が出来ると知りました。今の僕が元気に過ごせているのは医療保険制度があったからだと思います。

税金を払う時にどうして払わないといけないのかと疑問に思う時もありますが、税金を納めることによって安心して過ごす事が出来ると思いました。

僕は小さく産まれた時に受けた医療だけでなく、骨折をしたり、足首の靭帯を切ったり、転んであごを縫ったり、急なけがをした時に病院で処置を受けた事もあります。

医療保険制度は、病気になったり、思ってもいないけがをした場合にも助かると思うので、税金はなくてはならない存在だと思いました。

税金が必要な人に必要な所で使われたら生活も豊かになると思います。